

	公表	事業所における自己評価総括表
--	----	----------------

○事業所名	放課後等デイサービス 太陽のしずく		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 19日		～ 2026年 1月 8日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	2026年 1月 22日		～ 2026年 1月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 11日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	みんなつながれる場所	<ul style="list-style-type: none"> ・お子さんを中心に据え、保護者、学校、関係機関と連携して支援にあたっている。地域のさまざまな方とのつながりや生活介護の大人の方との関わり、卒業生との交流が大きな力になっている。 ・保護者とは対面だけでなく、電話やメールを活用して情報を共有している。 ・学校の先生と月1回電話や対面で情報共有し、相互理解を図っている。 ・市や基幹相談支援センター、児童家庭支援センター、障害児相談支援事業所等の関係機関と連携し、さまざまなケースに対しチームで対応している。 ・月1回法人主催のケースカンファレンスで療育アドバイザーに助言を仰ぎ、頂いたアドバイスを職員と共有し、お子さんの支援につなげている。 ・併設している生活介護事業所のつながりで、地域の方の畑で農業体験をさせて頂いたり、にこちゃん喫茶の周年イベントやしずく村FESTA、納涼祭等のイベントに地域の方と一緒に参加し交流している。 ・卒業後も仲間として大切に想い、卒業生を事業所のイベントや交流会に招待している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご要望があれば、保護者と定期的に面談する機会を設定する。 ・学校、関係機関等との連携を密にし、お子さんのサポート体制を万全にする。 ・地域とのつながりをさらに深めるために、お子さんたちが地域の方に恩返しができるような活動を企画する。 ・交流会や保護者会の開催を継続し、横のつながりを強める。 ・交流会に卒業生を招いて、活躍の様子や自身の経験を語ってもらう機会を設け、卒業してもつながりを絶やさないようにする。
2	思いっきり楽しめる遊び場	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの環境が充実しており、外遊びはしずく村とログハウスを有効活用している。 ・しずく村では、野球やサッカー、バスケットボール等の球技から、鬼ごっこや追いかけっこ等の古典的な遊びまで、さまざまな遊びが展開されている。 ・秘密基地基地感覚のログハウスでは、ごっこ遊びをしたりお子さん同士で内緒話をしたりと、遊びの自由度が高い。 ・自転車、キックボードを運転する際は、ヘルメットやプロテクターを着用してもらい、転倒等の事故に備えて安全対策を講じている。 ・お子さんがやりたい遊びをリクエストし、職員がサポートしている。遊びに参加する支援員以外に見守りをする支援員を配置し、安全面に配慮している。 ・小学生のお子さんや支援員、小学生同士、中学生、高校生と小学生というように、横割り、縦割りの交流が見られている。 ・お子さんたちから出た活動の要望は活動スケジュールに反映し、意見を吸い上げている。 ・中学生、高校生女子は、かわいい雑貨を製作しながらおしゃべりを楽しんでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お子さんが自分で考えて行動できるように、自己選択できる場面を意図的に設けていく。 ・お子さんたちの要望を丁寧に聞き取り、可能な限り実現していく。自分の意見が採用されることで、みんなにほめられたり、自信をつける機会につながる。
3	気持ちに寄り添ってもらえる 心配されたり、悩みを分かち合える	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援管理責任者や支援員が、気軽に相談に応じている。友人関係や恋愛の相談、学校生活や進路の悩みに対し、肯定的に受け止めている。 ・お子さんの様子がいつもと違うときは、心配して声をかけたり、お子さんの気持ちを聞いている。 ・休みが続いたり、利用が少ないお子さんの様子を知るため、児童発達支援管理責任者が保護者を通じて状況を確認している。 ・気持ちが整わないお子さんや不安が強いお子さんは、支援員がマンツーマンで対応し寄り添っている。 ・卒業間近のお子さんや卒業生には、卒業後もつながりを絶やさないように、いつでも見守っていることを伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お子さん、保護者からお話を伺うときは共感的な姿勢で臨み、誰かに寄り添ってもらえる安心感を感じてもらおう。 ・相談を受けたときは、前向きになる言葉を投げかけ行動変容を促す。 ・お子さん対支援員の関係性だけでなく、お子さん同士が支え合うピアサポートの仕組みを作っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	情報の発信 学びの機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS等で情報を発信したいが、リスクが懸念される。 ・お子さん、保護者がどんなことを学びたいのか、情報が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に情報がお届けできるように、お子さん、保護者にご意見を伺い、検討を重ねていく。 ・アンケート等で意見を徴収し、関心の高いテーマを選定する。気軽に参加できる研修会を企画し、広く参加を求める。
2	地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のニーズを把握できていないため、どんなことが求められているのかイメージが持てない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お子さんたちだけでなく支援員も地域の一員であることを意識し、海岸の清掃など小さなことから取り組んでいく。 ・地域の中で顔見知りができたり、役に立って感謝されることで「次もやろう」という気持ちが芽生えるため、継続的に関われるものを探す。
3	中学生、高校生の過ごし方がマンネリ化している	<ul style="list-style-type: none"> ・おしゃべりをしたり、スマートフォンでゲームやSNSをやったりする時間を過ごしているが、スマートフォンを超えるような魅力的な活動を提供できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生、高校生年代がワクワクするような企画を提案する。例/中学生、高校生にインスタグラマーになってもらい、太陽のしずくの活動の様子を発信してもらおう、等。